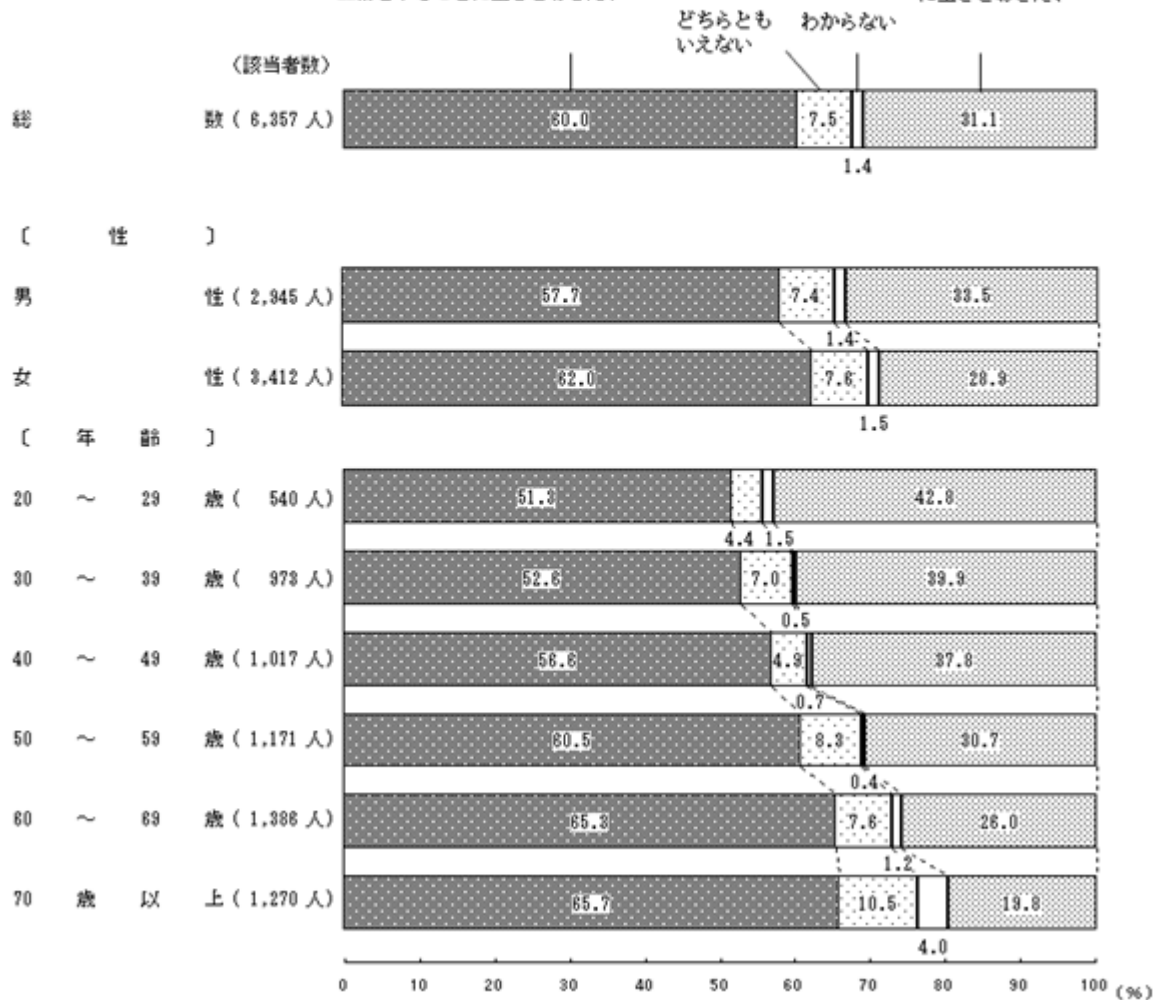


# 参考① 豊かさに関する意識

これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか

物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい

まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい



今後の生活において、これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさについて聞いたところ、「物質的にある程度豊かになったので、これからは心の豊かさやゆとりのある生活をするに重きをおきたい」（以下、「これからは心の豊かさ」という。）と答えた者の割合が60.0%、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」（以下、「まだ物の豊かさ」という。）と答えた者の割合が31.1%となっている。

前回の調査結果と比較してみると、大きな変化は見られない。

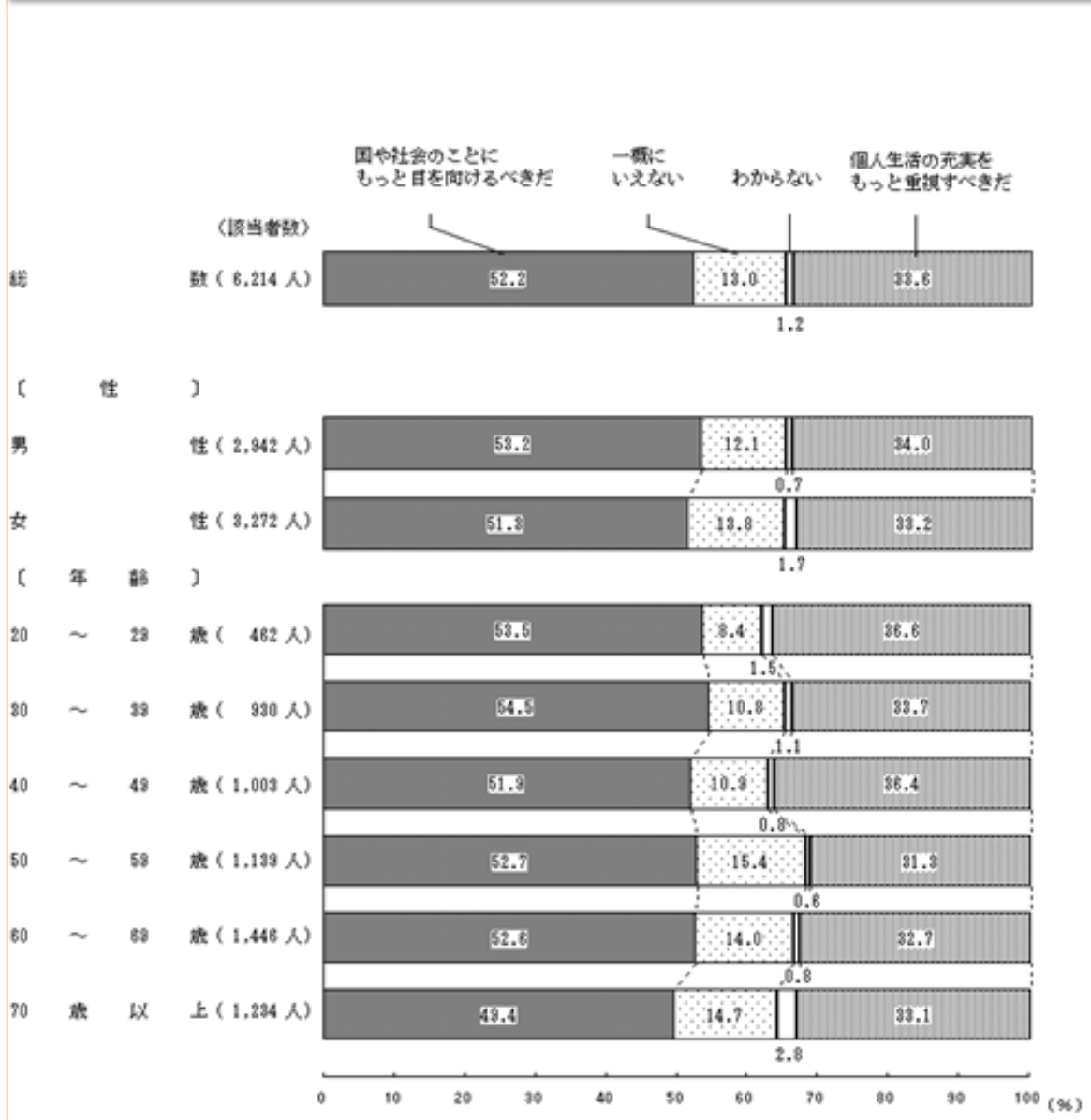
性別に見ると、「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合は女性で、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合は男性で、それぞれ高くなっている。

年齢別に見ると、「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合は60歳代、70歳以上で、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合は20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

性別・年齢別に見ると、「これからは心の豊かさ」と答えた者の割合は男性の60歳代、女性の50歳代から70歳以上で、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合は男性の20歳代から50歳代、女性の20歳代から40歳代で、それぞれ高くなっている。

# 参考② 社会志向・個人志向

社会志向か、個人志向か



・ 国民は、「国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」という意見と、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」という意見があるが、このうちどちらの意見に近いか聞いたところ、「国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」と答えた者の割合が52.2%、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」と答えた者の割合が33.6%となっている。なお、「一概に いえない」と答えた者の割合が13.0%となっている。

前回の調査結果と比較してみると、「国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」(56.6%→52.2%)と答えた者の割合が低下している。

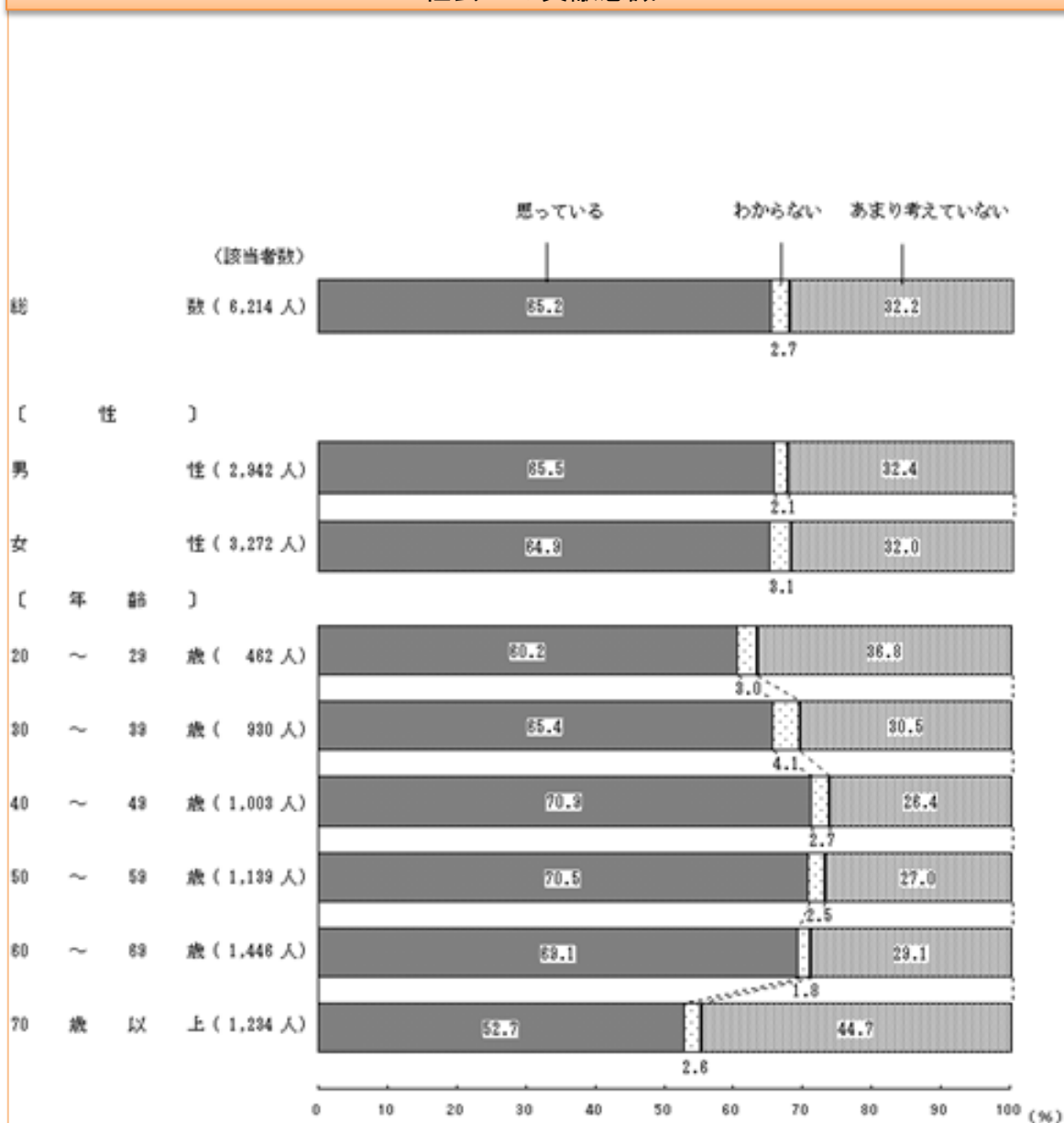
都市規模別に見ると、「国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」と答えた者の割合は大都市で、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」と答えた者の割合は町村で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「国や社会のことにもっと目を向けるべきだ」と答えた者の割合は男性の70歳以上で、「個人生活の充実をもっと重視すべきだ」と答えた者の割合は男性の20歳代、40歳代で、それぞれ高くなっている。

出典：平成22年 内閣府「社会意識に関する国民調査」

# 参考③ 社会への貢献意識

社会への貢献意識



日頃、社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っているか、それとも、あまりそのようなことは考えていないか聞いたところ、「思っている」と答えた者の割合が65.2%、「あまり考えていない」と答えた者の割合が32.2%となっている。

前回の調査結果と比較してみると、「思っている」(69.3%→65.2%)と答えた者の割合が低下し、「あまり考えていない」(28.5%→32.2%)と答えた者の割合が上昇している。

年齢別に見ると、「思っている」と答えた者の割合は40歳代から60歳代で、「あまり考えていない」と答えた者の割合は20歳代、70歳以上で、それぞれ高くなっている。

性・年齢別に見ると、「思っている」と答えた者の割合は男性の50歳代、女性の40歳代から60歳代で、「あまり考えていない」と答えた者の割合は男性の20歳代、70歳以上、女性の70歳以上で、それぞれ高くなっている。